



Atsushi Mekaru

銘苺 淳の

HAPPY HANDBALL

vol.7

PROFILE

1985年4月3日生まれ、26才。沖縄県浦添市出身。港川中で野球から転向してハンドボールをスタート。那覇西高一筑波大を経てトヨタ車体に進み、時代を変えるセンターとしての期待を集めて躍動中。ひたむきな取り組み、明るく快活な性格で、ワールドクラスのコミュニケーション能力を誇る『ハンドボール界の松岡修造』。連日更新しているブログ「おにあくま」(<http://meku-atsu.jugem.jp/>)も好評だ。

おごらず、にくまず、あせらず、くさらず、まけるな!!

止まらずに前へ進もう！

「おう、夏だぜ！ オレは元気だぜ！」とかまきりが言いそうな季節になってきました（笑）。多くのチームは新チームになり厳しい体力づくりや基礎練習に励んでいることと思います。毎日毎日同じようなことの繰り返しですが、それもハンドボール、それも人生です。でも、それをしっかりとこなしていくことがやっぱり大事なんですよね。

仙台でハンドボール

GWに仙台に行ってきました。大学時代に毎年合宿をいっしょにしていた秋田大出身の荒井先生と中京大出身の八巻先生が段取りしてくれて、仙台の子どもたちといっしょにハンドボールをする機会を作ってくれたのです。

今回仙台に行こうと思った理由としては、被災地を自分の目で見ることで、そもそも被災地の子どもたちがハンドボールをしたいと感じているならその手伝いをしたいと思ったからです。

仙台に着いてみると、純粋にハンドボールをするごく普通の子どもたちがいました。元気よく一生懸命に取り組んでくれるし、本当に楽しそうでした。

しんどい、つらい思いもたくさんしているだろうし、社会が全体として沈んで

いる状態で、子どもたちにはなにかに没頭できる環境や表現できる場面が必要とされていると思います。それがハンドボールだったら少しは私自身がお手伝いをすることができますね。

子どもたちにとっては1日、それもたったの3時間程度で、私がハンドボールを劇的に上達させることはできないのですが、思い出作りくらいにはなっただろうし、少しでもモチベーションが上がったのなら、私としては仙台に行ってハンドボールをすることができて本当に良かったと思いました。仙台でもハンドボールを楽しんでいる仲間が増えてとても有意義なものになりました。

被災地では

私が最初に見た仙台はなんら変わらない日常でした。仙台駅周辺は壁が少し崩れていたりしていましたが、生活に影響がない程度でした。しかし、そこから車で20分も行けば沿岸部で津波の被害を受けた地域になります。私が行った時には津波の被害から6週間くらい経っていたので車が通れるようになっており、荒井先生、八巻先生といっしょに見て回りました。道の両脇には瓦礫が積み上げられ、車は原型をとどめておらず、あったはずのものがなく、窓ガラスは3階まで割れていました。海水とヘドロで異臭が漂い、道脇にはどこからか流されてきたであろう牛が腐敗を始めていました。

そんな状況でもハンドボール関係者は動き出しています。荒井先生も八巻先生も津波被害に遭い、実家には住めず仮住まいですが、子どもたちのために毎日練

習に出ていますし、急きょ決まった私の仙台行きも段取りをとって環境を整えてくださいました。被災地でもハンドボールへの情熱は津波に負けることなく、また燃えだしているんです。

少しずつ前進を

フィジカルコーチの相川さんが我々によく伝えてくださいます。「この場に立っているだけでも努力が必要だ」と。

人生はランニングマシンのようなもので、流れてくる床に逆らって走っていないとランニングマシンから落ちてしまいます。フィジカルトレーニングも同じで今の筋力を保つためには日頃のトレーニングは欠かせません。もっと言えば日本リーグで戦うためには厳しいトレーニングに耐えて努力を続けないと、日本リーグというステージでハンドボールすることすらできません。我々はどんな状況になっても進み続けなければならないんですね。

私の講習会で義援金とともにお願いした被災地への寄せ書きの中に素敵な言葉がありました。「歩」という字を分解して「止まらないで、少しずつでもいいから、歩いていこう」と書いてありました。今、被災地ではその場に立っているだけでも大変な状況です。生きていくだけでも避難所で気をつかいながら大変な思いをしている方も多いはずです。それでも家を確保したり、仕事を探したりと止まらずに歩き出さなければなりません。そんな歩みのサポートを国や自治体、我々の義援金で応援していきたいですね。その人たちがハンドボールを望むなら、ハンドボールをするべきだと思います。

人生一方通行

人生は一方通行で過去に戻ることはできず、前にしか進めません。しかし一本道ではありません。ただ過ぎて行くだけの時間でも、気力のない毎日でも止まることはできませんし、いつかはなにかが変わるかもしれません。一方通行でもいろんな道があるはず。さまざまな道を歩む可能性をつねに模索してチャレンジしていきたいですね。

原発問題で避難している地域もありますし、被災地の復旧、復興はものすごいエネルギーとお金と時間が必要です。被災地にいない私がなにを言ってもダメですが、ハンドボールしている我々の仲間たちが、止まらずに少しずつでも歩いていけるサポートをなんらかの形でしていきたいと思います。できる範囲で継続的なアクションを起こしていきたいですね！ まずは、止まらずにハンドボールを通して「前へ！」進んでいきたいと思っています。



仙台で多くの子どもたちといっしょにハンドボールを楽しんだ（中田中での講習から）